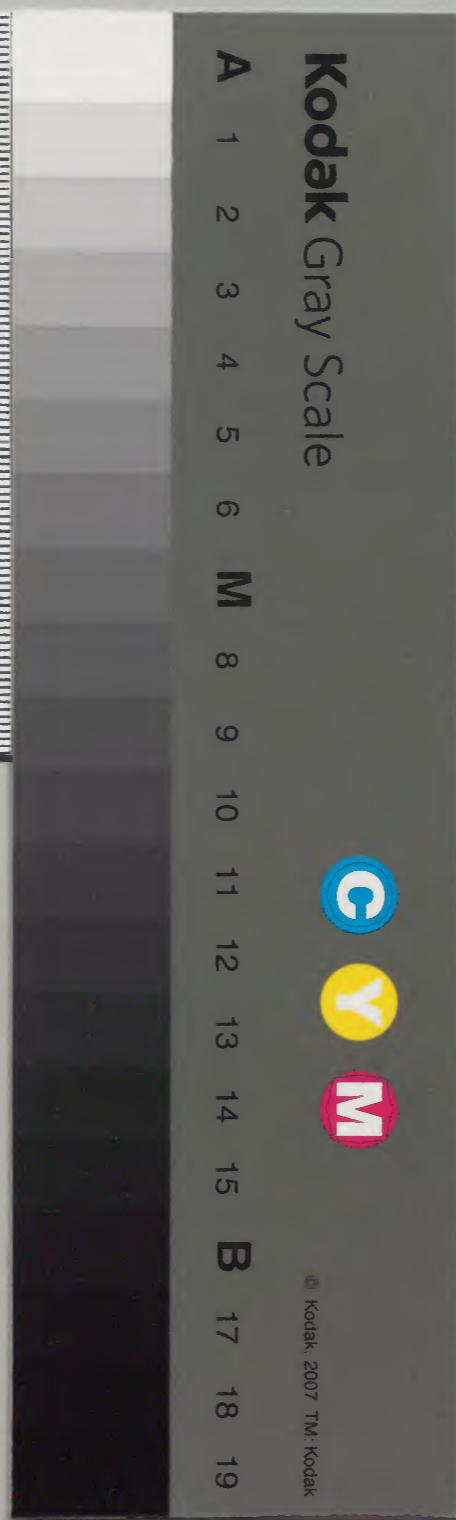


新刊所圖會  
編  
卷之六

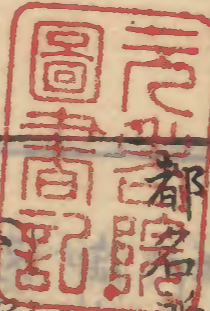
					和書門
		八	八		
	一	二	四	七	
一	冊	架	函	號	類

庫	文	閣	内	
五				和
二		八	八	書
四	一	二	四	
架	冊	號	類	

内閣文庫	
番號	和 8872
冊數	11 ( 6 )
函號	172 177



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



所圖會卷之六目錄

後元武

加茂

葵系之冢

岩本社

行遠土手

北岩君之雲寺

大長坊社

暗部山

靈源寺

藥師寺

岩門

御手洗川

麩馬圖

松ヶ崎

地藏堂

八垣圖

智辨水

ふごゆり

帆立石

神光院

燈女峯

光悦寺

河合社

上加茂社

本涌寺

幡枝圓通寺

長谷八幡宮

鞍馬寺

竹伐屋

大悲山

正傳寺

法義壇林

千束

紀川原涼圖

橋本社

妙泉寺

市京小町寺

朗祿谷

僧正谷

貴船社

西加茂

送火船舟

源光菴

題目堂

菩提窟	岩屋山	小野道風社	冠石
紫野大徳寺	今宮社	やまのこゝろ系	常盤前古跡
義経生水	舟岡山	雲林院	蓮臺寺
今宮御旅	金山天王寺	红梅殿	七の社
清和院	立本寺	焰魔堂	釋迦堂
引接寺	轉法輪寺	七本松	芝居
北野天満宮	内野遊女町	東向觀音	糸向松
大岡茶湯旧地	願成就寺	平野社	紙屋川
金岡寺	衣笠山	鏡石	等持院
芙蓉池	龍安寺	真如寺	妙心寺
双園	兼好古跡	法金剛院	西光菴
御室仁和寺	花盛園	大内山	鳴湫妙光寺
印金堂	泉谷法藏寺	西壽寺	般若寺

三宝寺	五智如來	宅魔塚	平岡八幡宮
梅畑善妙寺	柵尾専山寺	植尾西明寺	高雄神護寺
清龍川	地藏院	紅葉新	

瀬の川と  
 一石うき  
 赤良社の  
 うらうら  
 瀬の川と  
 細川と  
 風そら  
 小川に  
 夕暮るに  
 みそを  
 まの  
 あり  
 あり  
 あり



瀬の川と  
 一石うき  
 赤良社の  
 うらうら  
 瀬の川と  
 細川と  
 風そら  
 小川に  
 夕暮るに  
 みそを  
 まの  
 あり  
 あり  
 あり

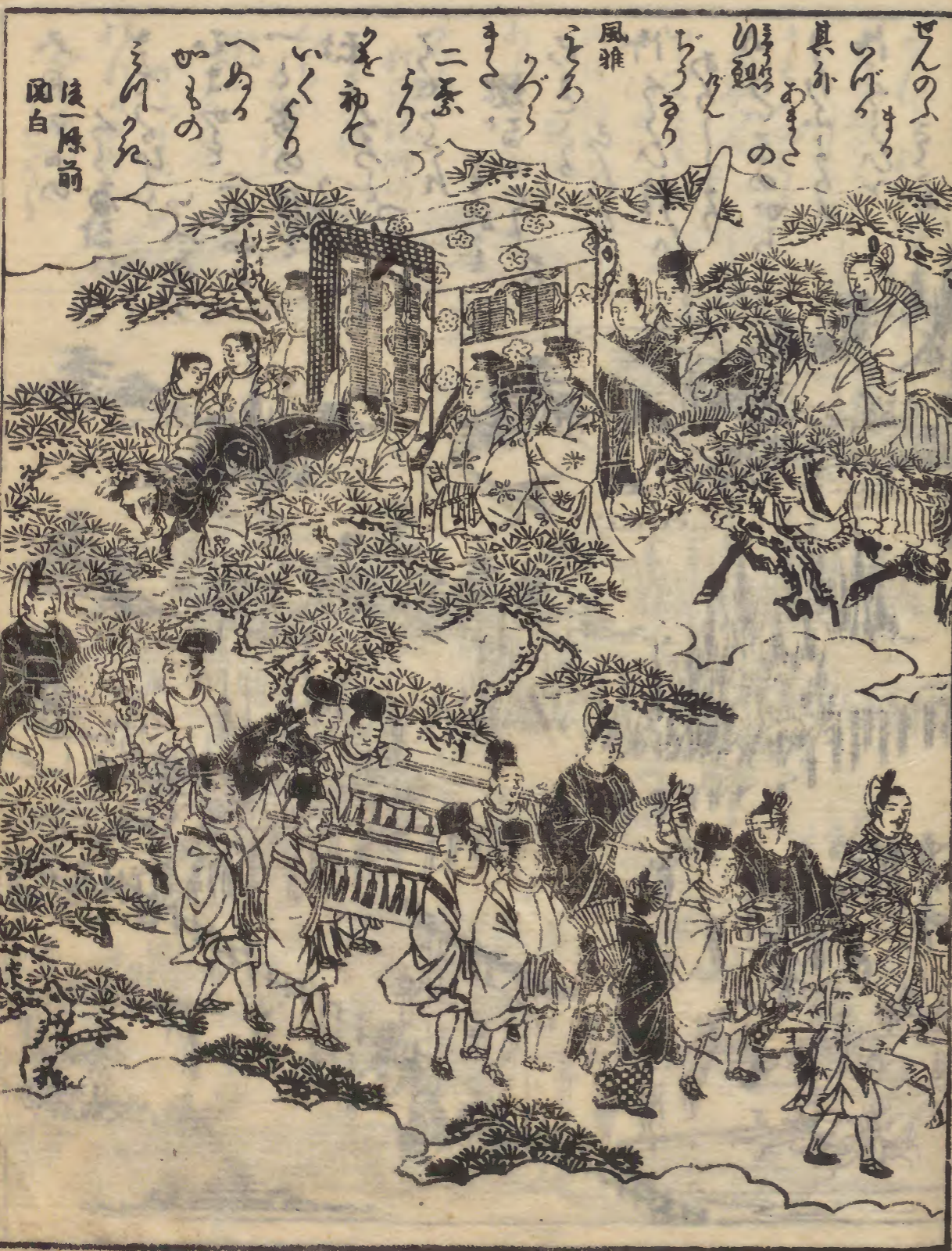
下加茂河合社



下加茂河合社







せんのみ  
 具外  
 りの  
 風雅  
 二系  
 冬神七  
 いく  
 へ  
 四もの  
 白  
 後一  
 前



四月の中  
 人皇三十一代  
 欽明天皇  
 所  
 秦幣使  
 近津使  
 武  
 武





上加茂社





松ヶ崎



松ヶ崎  
松ヶ崎  
松ヶ崎  
松ヶ崎  
松ヶ崎



御菩薩池



松崎本涌寺の開基日生上人して日蓮宗流るり天正年中に法海園純

の受室とるる姉弟も日像上人にわたりて所ありて日蓮宗をり

毎来七月十六日堂の主人あてけ里の若者男女うち京り題目より

ほけ舞やうしく柏子とり踊るなり果さん松崎の歌目たよりて

名小高し其夜うしろの山小ねりて妙法の二字と焼火に歌

會の送火ともるなり

御菩薩池の幡柱ありて傍り地蔵堂あり平相園法盛の代西光

法師ういゝかみしやうせと地蔵ありの其二なり

市京の普陀洛寺のいしへ清原深喜父の幽棲のいふふと春地はをり

丑寅のうゝあて堂の若しう後白川上皇大京の女院と訪りてをい

所坂通り普陀洛寺小所京のるあり

の墓ありはる人市京野原通りしにをり一むけはるのいふ

秋風の吹りほけてもあかめく小野いしう落れいなり 小野小町

市原小町寺



小岩藏大寺を寺へ天台宗ありてあるに對し親世もれ立像あり行基乃れ  
 とを柝けるのそとわに王様の小社をふはさるのなるしく所わん人足  
 をあやむむよめて勅使として右近衛中将何某はけりてせりめ  
 のふけふれ頼るり勅使不思議小思ひのふらち息結くしてのりりり  
 雪浪つてたれり其に現れ曰此地いふは親世もれ臨れ雪地といふは  
 いふ異香四方に薫りて靈嶽あり是と窺つてまへも樂と奏して  
 其中より親世もれ光明赫々たるは龍坂移きて此地小休置きて  
 多して行基れぬりぬい尊像坂をさるとる大をさし額に詔下つて  
 佐理卿等坂深きいりり今を堂に  
どう定こ同基の智多僧さりは叔  
いふ  
 を小岩藏とる川くまの詔あんとま城の四方に石藏といふるは怪  
 と納めらる具多りよ石座明神よりゆは是るをけゆあへるり  
 八鹽固いひりゆゆくの楓茂りて秋のそへ紅葉とるる蜀綿を翻し  
 あくは今の小の尾傍小かき結る



北岩倉大雲寺

八盛園



長谷八幡宮ハ惟仁親王の御後一ノ所ニ長谷花園中村ニ郷

の氏祚ありて祭ハ八月十五日社樂一基あり

詠詠谷ハ大納言公任郷の幽居一ノ人高松ありけ所ハ長谷川

を傍て水のくさる山中に入らむとみ出町とありこハ成道七

解脱寺といふ地あり今ハ礎石のこほりて地ゆめく公任卿

出家一ノ人とも異なり一町をりり小ハ平野を平地あり

彼郷ハ所ニ住らむ和漢詠詠集ハ撰トハひ一とあり又

所所谷ともいふ

世をそむく長谷りゆり入る中おのともあり

長谷川ハ八幡の長谷川ハ谷より流るゆめく長谷村の中ハ

西へかへる岩倉大寺ありありありありありありありあり

花園ハ長谷れありあり

ありありありありありありありありありありありあり

鞍馬寺







本堂に水よりの雨樋水溜りして漏出今にたもるるに云ふに所とあり  
 此小るるに星夜きりて魔夜拂ふるりね又夜に入ると異状をそん今本堂  
 此中に在りしに流流法力と云ふ新教に入ればとるありの俗人よりいひて  
 毘沙門天に告ぐるに後者の入り後と止むとぬふも告ぐるに告げ不忠後のもとも  
 まりたれとていひて  
 翻明社にいははの氏社ありて大門のうらみありなやわるといふ己貴命  
 一産するに朱律院の所付天慶年中に勅信ある由本と号する年天子此  
 所臨みしに世のさうしたとて勅を此社におけらるるなり 何れ九日  
 産石焼炭本芽漬にけされ名考するに難ありしと全徳世ふ名考するに  
 産たけりしにまればのうに橋も折枝も折れとるるなり 顯ま  
大木 足やこのまにまはるるにまはるるにまはるるにまはるるに 定れ  
袖中抄云 産珠採り唐鞍にまはるるにまはるるにまはるるに 定れ  
 僧正谷平なる異人に遇合刺撃乃法さほくさるる人子となり

六月廿日

鞍馬の竹伐

僧正谷を

佐いらみ

貝ぬく

僧よ

のんこ

具角





貴布祢社の水神固象女れ神ありま倭并諾尊軻遇実智とまりて二股と  
其かく川と高雷龍とそりけつひ急流のやう一の丹生社一は新より皆  
佳の降迹あり今と雨と佳ぬ取止る事とつらふは二神あり

社司ともきつひのふ糸りてぬらひせしはんせふあり

おね河田ねいふりてりりせりてせりてせりてせりての神 加茂車平

貴船川玉らり流の岩波り水流くく秋の東れ相 佐成

又本 秋風の吹くくれば本船と舟とわけて麻と鳴る也 成世

梶取社の二流の里れ水にそ船の一乃多居あり具のこらにちりりん

神代れじり一糸の神本船よれまきとれたら流り一神とせ

足酒石の本船川の中いり宇治橋姫を船へりそはるふ体ひ足と流り

登石の本船くくまの落合川ありありて壊れあり

和歌式部まの保昌とつれくまよりたつた社にりりて雲の飛とる

おとりのほきの雲とるまよりわくがれまのまをくくをえんは 和歌式部

とそ流もよへし河との中より男子の年より

奥ふまたたりて流は流の玉散るさうり物るゆりしを 貴船明神

式部そのら巫をのこいほ川とせりり保昌ののらにそ社の

本流にまのうれはゆり一に巫とるさうりあぬりしと

とに式部くくうら赤めく

子子振神のうらめもくくや身とる入るそ身とるすん たまたね

とよまはりたれ保昌まのあま具らら保昌のやま一とる

別式部とくくくくくくくくくくくくくくくくく たまたね

晴那ふへま船と流りり日神とるにさのりまゆはくた世界とく

くくくくくくくくくくくくくくくくく たまたね

梅花白くくくくくくくくくくくく 貴之

大悲ふいりりりりりりりりりりりり 貴之

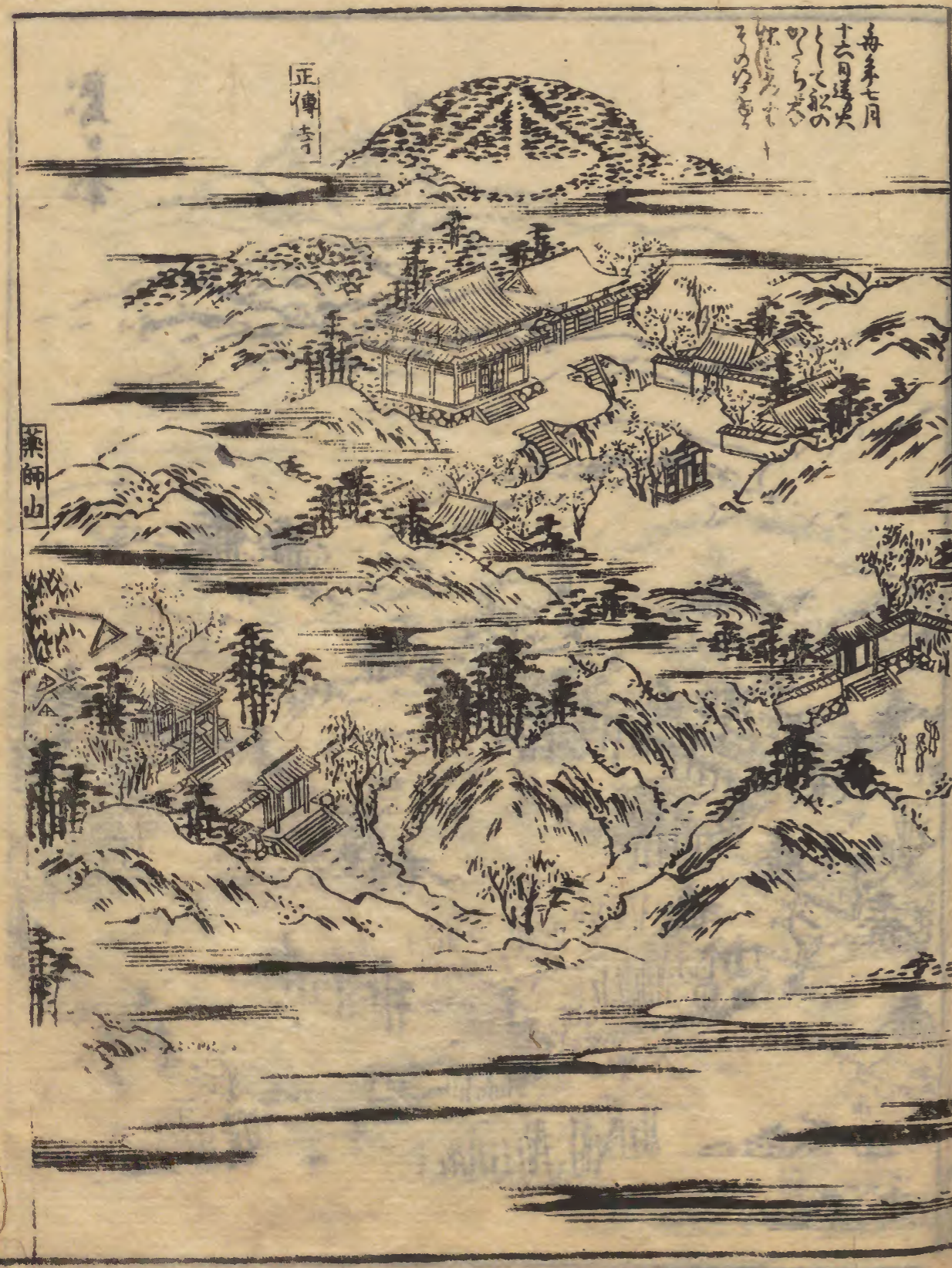
平相と清盛れいりりりりりりりり 貴之

西加茂

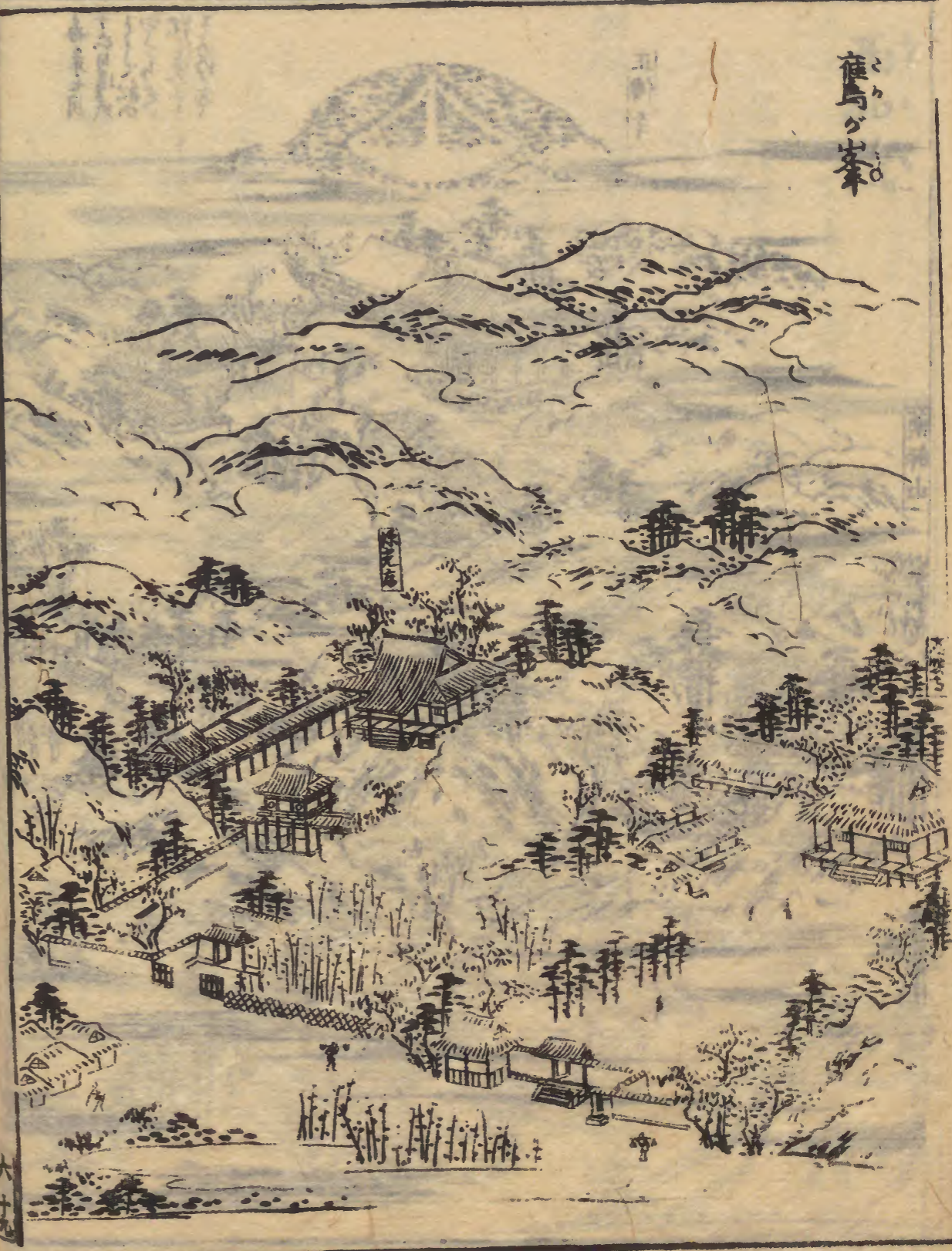


毎年七月  
十六日迄大  
くして船の  
りらるる  
ははるる  
そのゆき

正傳寺



薬師山



鹿嶋ヶ峯

岩屋山金峯寺の満樹峰の山あり奉尊の不動明王の山あり  
 系王菩薩現しあり霊場之因基の役行者又弘法大師の  
 て靈は依修しあり所あり杖敷嶽の岩屋より一里よりあり  
 わりて惟喬親王揚屋とありあり所あり  
 西加茂神光院の因基弘法大師ありあり他の像依安  
聖王の像也 奉尊  
愛深明也 依安の他之 杖敷を修る所なり 依安の像也 杖敷より  
同所霊は 後水尾法皇の御孫なり 因基の佛頂國に奉尊の釋迦佛の他也 杖敷あり  
後水尾帝の聖像又因基の像依安の辨財天社の像也  
 吉祥山正傳寺の因所あり禪宗あり因基の東岩冠禪師之  
 一山に楓樹多くありて紅葉は以て千枝爛熳とて楚岸三江と  
 ありてあり  
 船は送り火を正傳寺の山ありとあり例祭七月十六日あり  
 此所あり船の形小火を焼て靈舎の送り火とする也

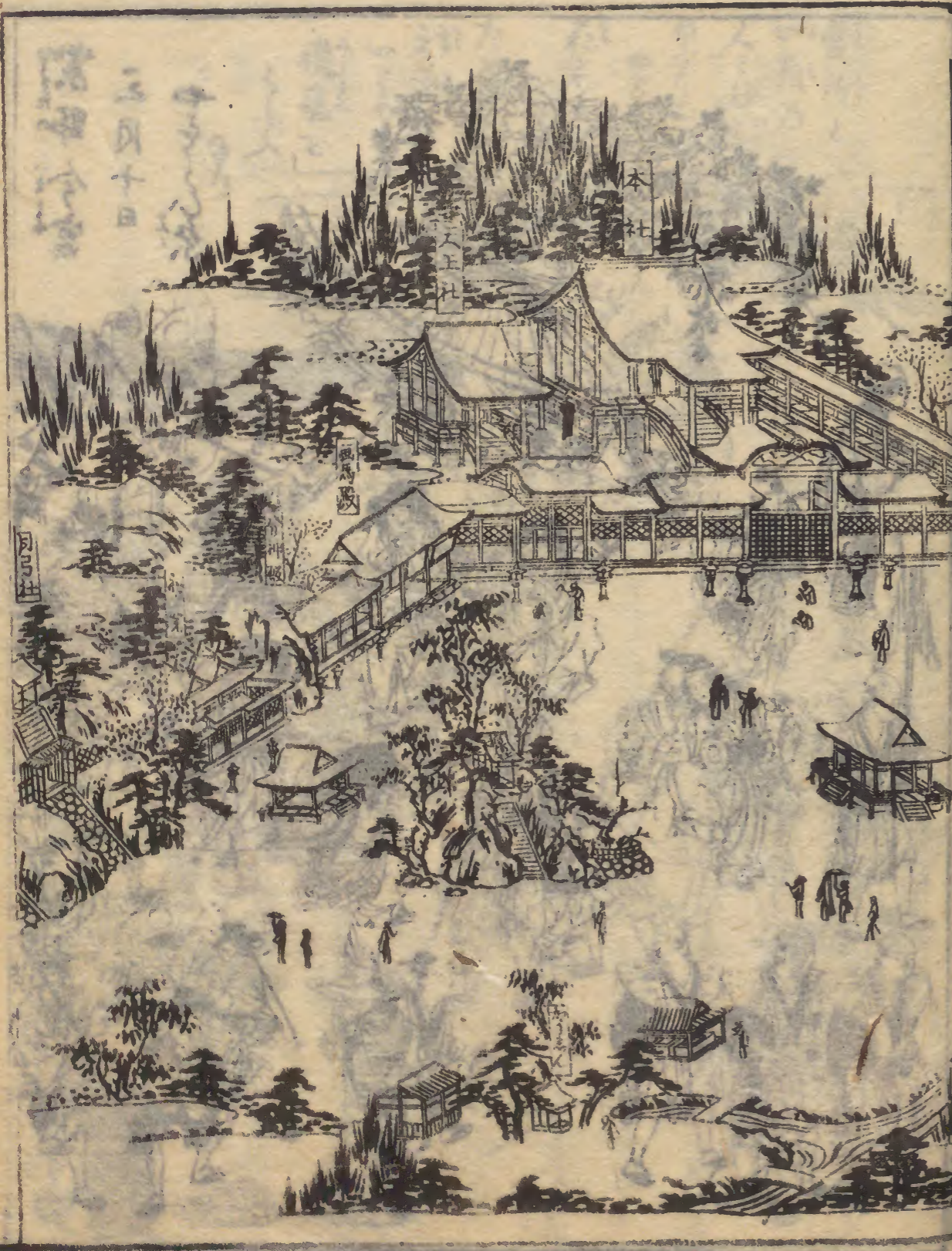
薬師山の草堂をむとて瑠璃光如来を安置ありありハハ伽藍  
 殿重なりて傳教大師を祀りありあり  
 應山寂光山常照寺の法善宗の檀林あり因基の日乾上人あり  
 日源光房の禪宗ありて此山和尚の因基あり  
 日光殿あり法善宗ありて元奉の法光悦の堂あり所ありあり  
 大虚房あり羅山先生は菴の記をうけりあり  
羅山文集  
 日経目堂あり興あり常行経目と唱へてありあり  
 石門を築き水にあり兩岩ありて具あり敷大門を構みあり是と  
 霊嶽寺の石門ありあり一圍行法師入唐ありて青結の義善と  
 兩社の密教を授て永和六年に帰朝ありて靈嶽の依安ありあり  
 善提勝の善峯あり一里より西ありあり  
 小野道風れやありあり杖敷ありあり所ありあり所の氏神あり  
 冠石の東河内の中あり冠の形ありありとありあり

大徳寺









三月十日  
 今宮社

今宮社

本社

今宮社

今宮の

のり

まし  
 はら

まの  
 宮古

やしろ

ま  
 めり

長  
 長社



社司  
 七  
 七

紫野今宮  
三月十日  
かきし系



當所と  
かき乃  
人々社  
ゆづりて  
花  
たいゆれ  
おほ  
いさめ七  
痲瘡と  
り





舟園山  
雲林院  
蓮臺寺



七の社ハ舟園の南ふあり當社ハ深殿の后北祈願ふなり二堂の  
の表日明社紙勅書すしほを具後伊勢石清水稲荷加茂  
松尾平野河併なり七社と号を又一説ふ法北少七燈あり  
因姓小姓柏野蓮登社上座平此等の中ふ祭あり社なりを  
あつし人々を諸願ありとの社あり砂を積む之笠山北狀紙  
う川をたけり春日經向の標れ本も北地あり  
今宮北津旅所ハ雲林院の異ふあり毎歲五月七日奉社より社樂  
遷座ありりり茶店ありつゝ芝居設下師奉弓柳乃乃  
終に十八日社樂ありし中を極したるいん方なり  
上品蓮臺寺ハ千本通の小頭ふあり同基聖徳太子なり其後  
僧正觀空位職して志言中とありむ奉尊地藏菩薩ハ  
聖徳太子の所化なり又弘法大師自化此像紙安曇原寛平  
上皇位所小おのそ蜜權と稟なり  
元亨釋書

金山天王寺ハ北野社東の門通ふあり天台宗ありて奉尊如意輪觀音  
ハ聖徳太子の化あり洛陽觀音巡の同基ハ聖徳太子と則自化乃  
像紙安曇原太子堂の額ハ釋迦如來轉毫光所上宮太子淨跡  
中心と書して小松院の靈帳なり  
紅梅殿ハ天王寺のおにありある所菅神の愛ハ人飛梅ハ靈神あり  
清和院ハ七本松通一条の山あり真言宗ありて聖徳太子地藏菩薩  
の二尊紙安曇原と系極通春日山あり今清和院佛門と號を  
明曆年中よ北地に移すと  
具足山立奉寺ハ日通正親町北西あり法華宗ありて日像上人寂園  
基くハ祖師堂ハ安曇原日蓮上人の像と曹影ハ一人初め松永  
ハ男右湯門佐久道侍佐々本上原次と人者出陣の時中ハ懐めて  
曹影を後ハ土中ニ藏し盗人ハ其影棄んとするハ磐石け如く大ハ惶  
次ハ懺悔して當宗門と成し尊像ありて終に遂なる

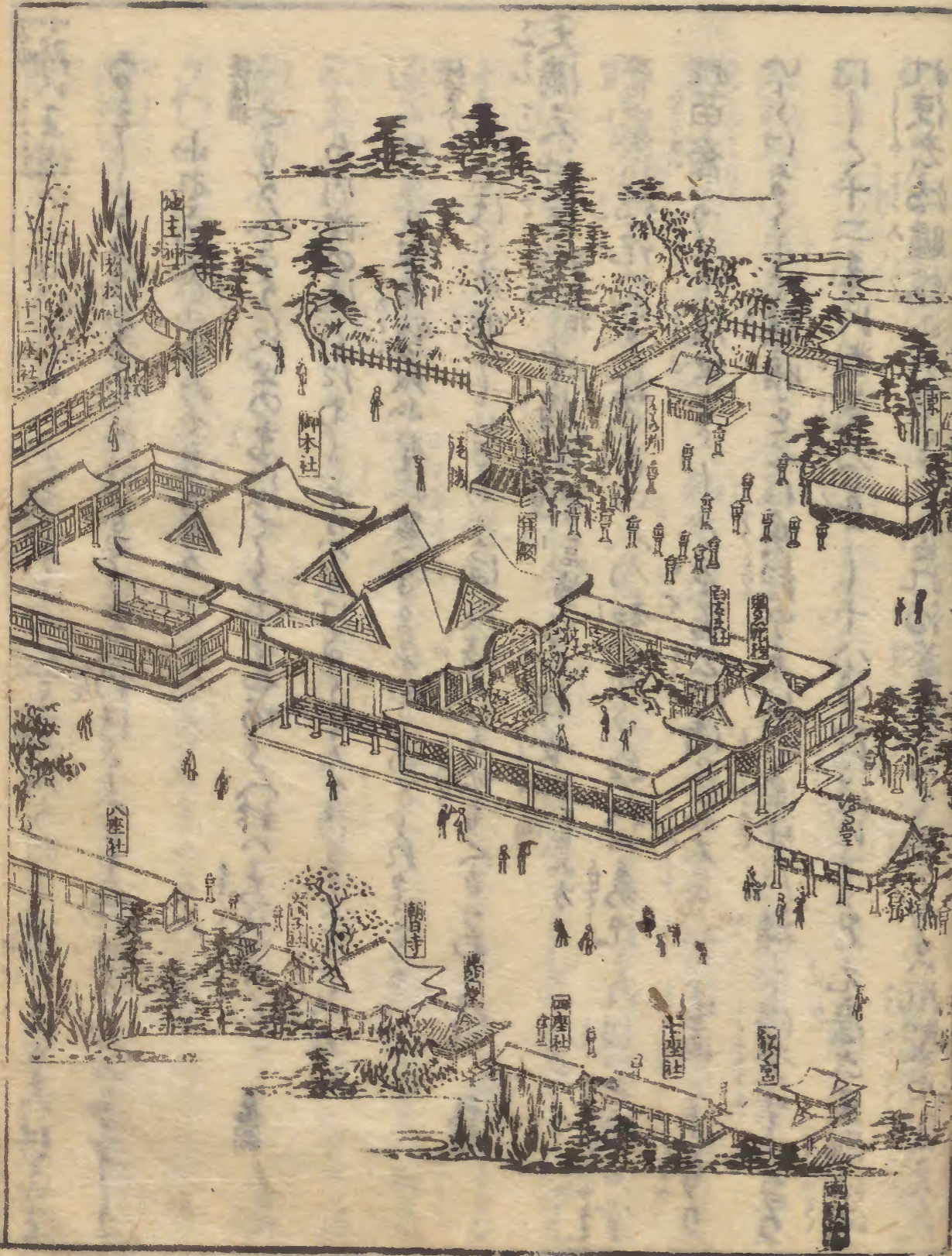
七野社



千本焔魔堂の蓮臺寺の南にあり引接寺と号に宗首の眞言の  
 本尊の焔魔大王にして法橋定朝の他當寺に因基の正覺  
 律師と鐘に後よりあり大念佛の文永年中に如輪上人が  
 めり入し寺に橋小普賢像といふあり弘生の此花盛るとりて  
 程ををとりむる之に説小むり一筆乃窟に日藏上人眞土り  
 いりりぬへの帝いりして上人小向ひて宣ふ中へ我樂の業  
 因縁入して今遠きうたうりてををり汝は女修小帯とて家  
 為ふふ本の奉土修の供養とて一首れ分と添り  
 いさうく捺落の底小入ぬるに利初も首陀もつりりり  
 日藏肝液袖小あまり意解るとしての夏形りけ首級奉圖して舟屋  
 千本れ奉土修の蓮臺寺と遠きいりりて河中うりひ伝書りり  
 大報恩寺に引接寺の西小あり千衣釈迦とて本寺釈迦佛の安所  
 の能く宗首眞言の宗首法上人と







北野天満宮



とつらつらに於て朝日寺の僧最珍石京に父子等と力を合せ靈祖に傳り  
 天徳二年石大長脚痛る所も神威をうまひ魏々あり大慶であつたといふ  
 當の今これ小野宮足之一系院の御宇に曆四年八月に勅使を奉府に安  
 楽寺小法師大政を長正一位を贈りぬり末社小野の宮とて一依一依乃  
 松よりい初小神秘はてふありとて也 已上  
 二月廿八日菜種御供に御神奉あり七月廿日御供ありとて末務人四  
 殿に入神寶虫干あり九月四日當社の系れあり  
 日向觀音ハ志明塔ハ西側小あり奉るハ松楡の二樹ハ以て當神奉あり  
 きごまをの十一面觀世音あり  
 預成就寺ハ日向松の岬小あり奉るハ松也多寶佛ハ二尊ありい寺也  
 足利將軍義滿公ハ名氏清と因時小於て合戦あり義滿討傷ありして  
 氏清ハ首級得たり氏清ハ妻双の勇士あり其人其追悼れたるを道場坂  
 邊一萬部の妙典と讀誦しぬひたり故に經王堂ともいふ

平野社ハ小野より乾みあり奉る神四尊あり源平高勝大に依り四姓乃  
 氏神なり第一今本神 日本武尊 第二久度神 仲良天皇 第三右利神 仁徳天皇  
 第四比咩神 文照を伴 大に氏  
 縣社ハ天穗日命 中系諸系 四姓に氏神なり奉り一ハ桓武天皇延暦年  
 中に建立せり清くくぬら正一位清和天皇貞觀六年七月十日小野川に  
 奉り例祭ハ九月上の申日なり  
 拾遺 生 生云けまじりくねく來れあや松よまね葉よまをのあななく 之補  
 新載 新載 新載はよままよりせしなされやまねく松小つねの白書 家隆  
 ちりちりやまね松もくをいた候妻のたぬいさるけり 一人  
 紙屋川といふむくい川のなりりあて紙をすね高きなり  
 大嘗金の湯にた芸見川の橋よ平野の橋よりわしとてわくくま見  
 川ハ紙屋川の別名なり又仁和川ともいひく仁知とて慶大ありて赤ハ  
 紙屋川のちりまてち院をまろく造つてけけりくくい也



平野社



新書  
 平野社の  
 松も  
 花候  
 多め  
 あり  
 免  
 ち  
 へ



金園寺きんくわんの御ご衣え笠かさのぬりぬりあり禪宗ぜんじゆうして鹿苑寺ろくえんより入  
 應永四年おうえいに將軍義満ぎまん公こう鹿苑院ろくえん殿でん也なり高岡たかおかとたく花巻はなまき依よはくし金鉤きんこうとて  
 一面小姓せうしやうの園のの心こころをうて九ここの八はち海うみとる川がはけけつけつう書かきえさぬあり  
 金園きんくわん之の重かさねみして第一だいいちを法水院ほふすいといふ鹿園院ろくえん殿でん道みち義ぎの像がうあり  
 音洞おんどうといふ自法本の教書 第二だいには究竟くわうじやう項かうといふ後小松院勅額あり花巻之四面  
 ひり境さかい地ちとる川がはとる度たふりりしなり契門せきもんの紙屋川しやうがはの西にし今の地藏院ぢざいの傍かた  
 あり礎いし今いまあり所ところを芳徳ほうとくといふ金園きんくわんに廻まわりてふ地ちありて芳徳ほうとくはるん  
 及およ楊やう依よ茶ちやと比ひれぬに拱こう小橋せうきやうあり契せきに小浄堂せうじやうだうあり東あづまに地藏堂ぢざいだう安やすに具ぐ  
 地ちを地藏ぢざいとといふ具ぐ小大塔せうだいたくあり茶ちやを弥勒みらく方ほう丈じやう小せう一いつ巻まきあり紙し目め巻まき  
 と號なづけぬ小方せうほうれ寄よ親おやけ地ちふとくといふあり  
 鏡石きやうせきの金園寺きんくわんれ小紙屋川せうしやうがはの久ひさみあり石いし面めんの晶しやうれあしく鏡きやうと遷うつては  
 の川がはと名なとせり  
 東あづま堂だう  
 うらまはれ家いへ忌いみ敷しきやわくしん鏡きやうれ鏡きやうふとくといふ白しろ巻まき 貫くわん之の  
 六三三

鏡石きやうせきの物の類るいはくくうのり  
 ありてくうの怪あや石いしありしり  
 香かう土どの仙人せんじん移うつり石いしあり  
 取と度たふ大だいみして石いし面めん鏡きやうといふ  
 うへ人の五ご條じやうはるのを疾はや  
 あるはれ則すなは其その形かたちはあ  
 りてくうとあはれくうのくう  
 とくうたふき







龍安寺

浴室



等持院の衣笠の麓にあり

開基の養憲國師より足利尊氏公に建てるなり一院より本尊の地藏菩薩大聖歡喜天の堂鎮守六請明社等今に互に互に遺跡あり等持院の堅額に相公義満公足利家累代に昭堂の義照院義政公の御一あり證果の額に開基の養憲の著あり

衣笠の等持院のうらあるに仁治年中に内大臣藤原家良公別荘と違ひ衣笠内大臣といひあり

新二帖  
このある都のいね井あるに内大臣の麓あり  
繪掛のうらあり寛平法皇清室に於てある月の巻天又海香れ眺み好むに筆に白く繪紙のりてまをれりたとなり  
ゆらゆらあり

小松内大臣重盛山の草野の地の衣笠の東に麓あり

衣笠の養安寺の等持院に西あり

開基の義天和尚文明年中に細川右京大夫勝えりあり  
神いたた實能公の心在り徳大寺公右公の代細川勝えり地と  
往りしありあり釈迦佛大元達磨様像の東西に壇あり惠光様  
像細川勝えの像安徳の四天に画に東福寺北殿司に著し  
方丈の勝えの館と院とありてありてありてありてありてあり  
物粒ありけ地山の衣笠に山頂あり遠小園一陽來復より温  
氣ゆるみ早し池に面ふ水ありありありありありありありあり  
養安寺に記ありとく名ふあり

真如寺の衣笠の松原村の西あり

開基の養憲國師本尊の釈迦佛仏光國師像壇下小堂に達磨佛玉  
養憲の記あり  
とく康永年中に高武藏守師直修造とあり



妙心寺





松のまや  
 ありしれ  
 長の  
 葉の  
 乃  
 月  
 新  
 入道一不



雙岡



浄室浄門前之圖



洞花  
九老

又人  
は  
大田  
乃  
橋あり  
り





同來乾山  
八十八箇所  
明拜の音



毎来二月十八日申九者  
内堂ありて但般奉るあり  
八十八番宝蓮印を  
不慮に任心のなれば  
と初めんとを初ハ過去  
長生もあつてあつて春秋の  
彼岸中同 七月廿四日  
まての供養あり  
十月十三日六十あるあり  
おとすんざら供ありあり  
まじわぬ屋とりあり  
らとせぬの御住を  
かろとまねとふまろ  
法名と初めんとを初  
内門あり又ハありあり  
茶所ありとありあり  
初めとありありあり







是當山も佳境なり生音より櫻樹多く殊小山嶽迫り  
はひふ嵐はげしく枝葉のまきでわのづら梢高く千屈曲なり  
境よりゆる坂下跡生の花並より都郡のま妙庭客春の湯と  
争い己が種を幕屏ひと見え慮松が傾小伏し雪白く根は岩塊  
とゆき西飛の白日と燈束と博んといふ表色の風も花を響く身は  
情じと月と論なりを遠く北嶽山の林森より一里余のわり小田  
大湯遠洋のより八十八ヶ所と通年亦再建ある在来まきの亦年  
高大脚山安並より加え金剛男宿務男法皇の種字一石一草と  
宮より方の迫り小建らるもればけし内々別あ初の曼茶茶茶界と  
り入その内小八十八ヶの小堂と巡洋まじりけ功徳とゆき二在安来の  
結縁さうめ給え亦志然とやあまを名賢の人々信善なりには  
善ともま清観し其系を一方よりづら信善の山終まを後系  
種々種々目を観るづらま不捨地とらるるなり

鳴瀧ハ仁和寺の西小ありは所の砥石れ名考なり

山家 志すしその人めつみせりれれくくへ瀬やるる瀧乃川 西行

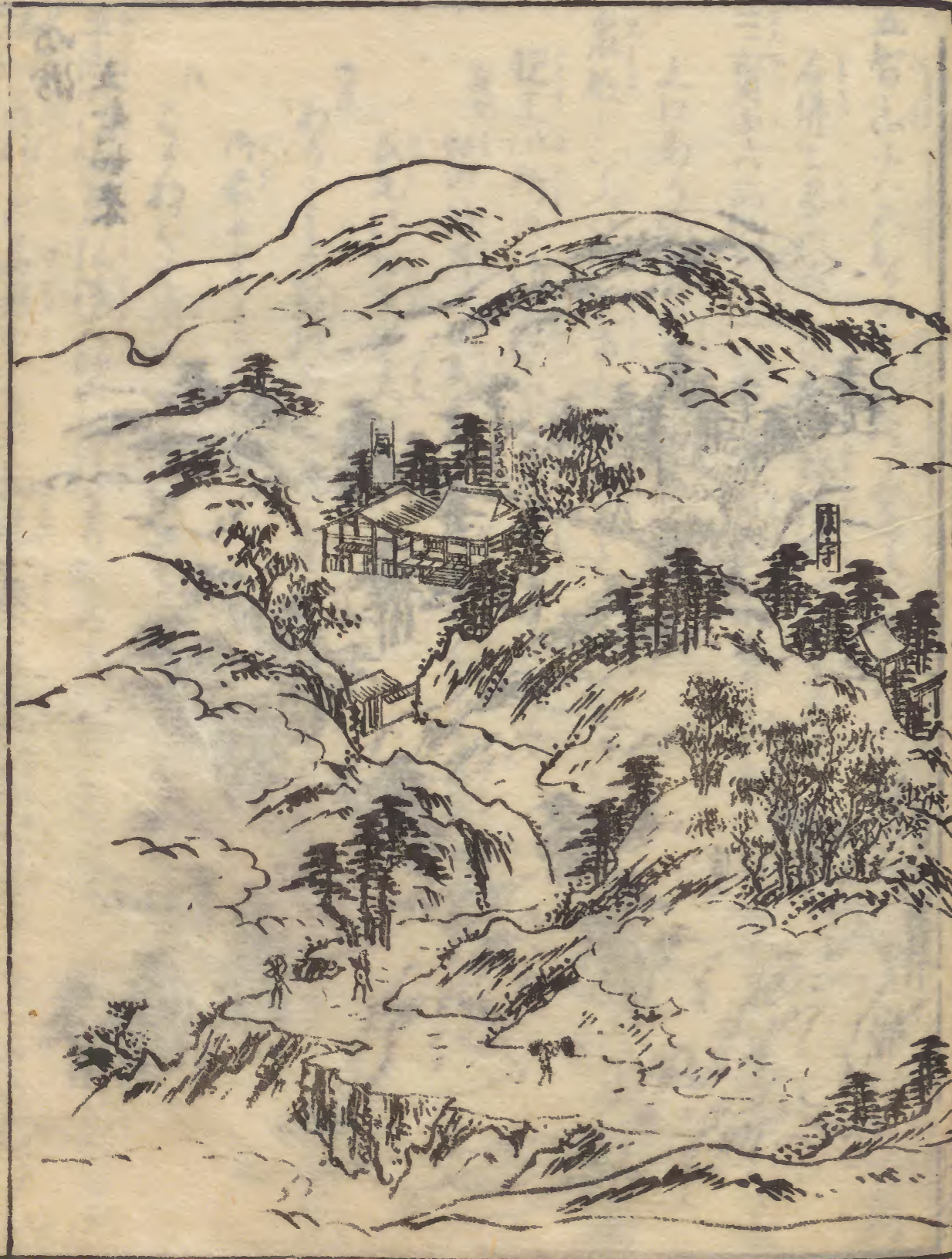
妙光寺ハ鳴瀧の里れ小にあり神ハ因大臣藤原経の長男右少将忠奉  
追福のため小に別業坂寺とるし妙光禪寺と号と別業々法燈  
園師あり存る釋迦佛と安と寶陀園の額ハ本房和尙の著し紫雲  
基の旧地ハうしらの山にさる印金堂ハ寺内れ四方懸るま石押く  
當所の莊観とれとくまなり  
泉石の法藏寺ハ英傑宗派ありて百拙和尚の園基なりは所西寺利  
しハ津土ふりて存る阿弥陀如来ハ惠を僧おれけりゆふなり  
五臺山ハ般若寺あり園基ハ觀賢僧正存預ハ入江玉剛朝長なり  
宗者ハ真言古義ありて存尊ハ文殊菩薩阿弥陀堂ハ阿弥陀觀  
勢至のこきとせのハ觀賢僧正の存禪ハハのまらるるふあり園林井の  
堂れうしるにあり



三  
院  
山



光  
寺  
西  
寺  
法  
寺

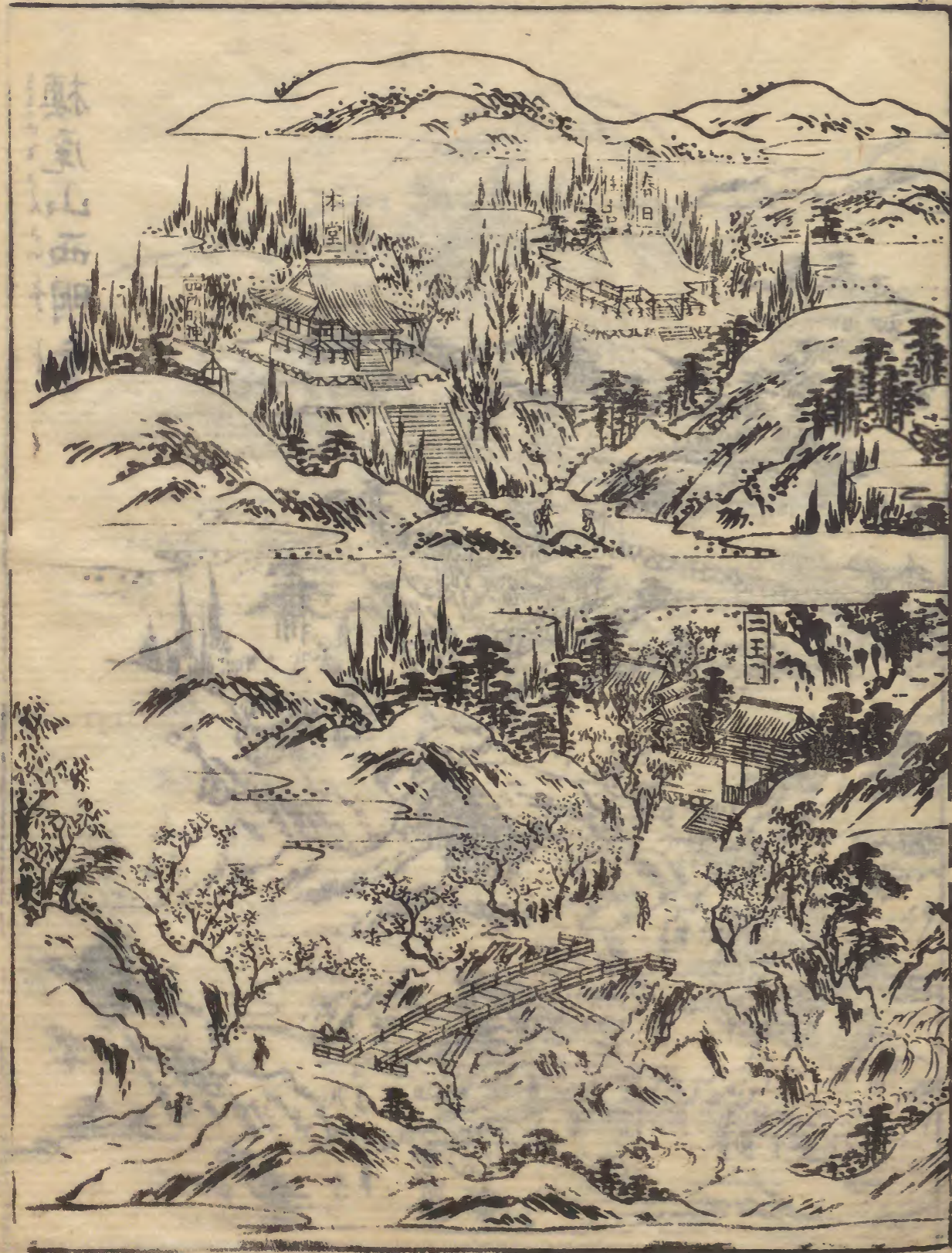


五峰寺



五峰寺  
三般寺





蘇我山西側



柵尾山高山寺

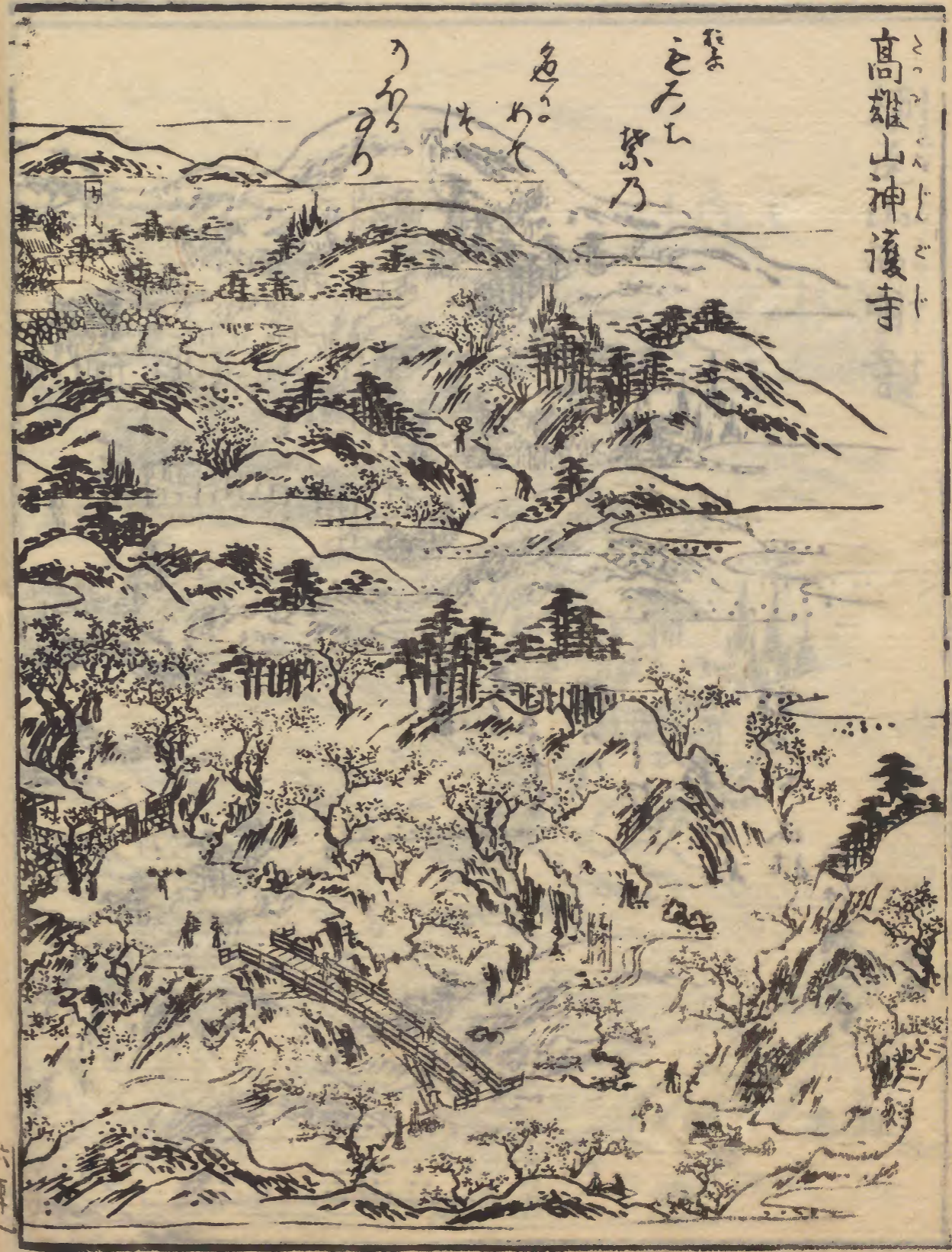
六甲





江戸  
の  
雄  
東  
の  
雄

高雄山神護寺



高  
雄  
山  
神  
護  
寺  
の  
景  
色  
を  
見  
る  
に  
あ  
ら  
は  
ま  
る

柳尾とあるは、華嚴宗にして存するは、秋如來明惠上人は、因基の紀別名、  
のふり九歳に於ける雄と上、受小後、俱金頭をよみ、密宗の會、小く、  
善法景雅、小く、ひ又、殊師利、小歸、日、に九字咒を、下、二、奉、に、利、  
東、を、此、戒、壇、に、於、て、受、具、興、然、阿、闍、梨、を、さ、う、い、兩、部、に、密、に、  
ま、柳、尾、小、僧、賢、首、宗、と、さ、ぬ、入、和、名、は、小、く、自、遣、心、集、と、云、云、書、  
を、集、じ、初、勅、撰、小、く、上人の、あ、ま、ま、入、ゆ、り、ぬ、寛、永、四、年、正、月、十、日、寂、に、  
柳、尾、と、平、名、院、の、真、言、法、師、と、して、因、基、の、智、衆、法、師、と、り、存、す、の、秋、如、來、  
明、惠、上、人、の、他、り、ぬ、入、子、の、親、も、の、聖、徳、を、子、に、傳、他、と、そ、う、い、  
お、雄、山、神、護、寺、の、光、仁、帝、に、神、宇、和、氣、の、法、磨、奏、回、し、建、立、さ、り、初、の、  
神、預、さ、く、號、し、ぬ、淳、和、帝、神、宇、天、長、二、年、小、空、海、小、揚、の、神、護、と、詐、言、さ、  
と、あ、ら、う、あ、号、に、具、此、詔、と、下、し、令、別、定、方、の、額、と、空、海、和、尚、と、さ、し、  
勅、使、を、立、せ、の、い、たり、あり、う、又、月、雨、を、て、は、瀧、川、の、水、坊、り、と、高、雄、と、い、ゆ、

止、り、る、勅、使、別、川、の、不、と、り、小、く、さ、す、の、あ、ま、い、業、煩、い、ぬ、い、たり、と、空、海、と、い、  
ゆ、して、弟、小、空、海、ゆ、く、ま、持、つ、額、小、向、つ、て、ま、の、に、墨、書、け、つ、ぬ、  
額、の、面、小、忽、ち、令、別、定、方、の、四、字、現、る、大師行狀記 額書石 石面小窪あり  
金、堂、に、奉、尊、薬、師、如、來、講、堂、に、又、大、尊、と、い、ひ、弘、法、大、師、の、佛、と、橋、門、乃、  
額、に、仁、和、寺、光、信、法、親、王、に、所、奉、納、涼、坊、小、弘、法、に、像、依、安、ん、又、宗、と、い、  
ぬ、画、像、も、あり、鐘、樓、に、金、堂、に、良、小、あり、と、淨、れ、説、の、管、系、足、若、脚、序、の、初、に、  
橋、廣、相、筆、者、の、若、系、敏、行、り、足、依、世、小、之、繼、と、號、と、奉、朝、け、名、當、り、  
して、又、う、ぬ、と、の、あ、ら、八、幡、文、の、經、藏、に、聖、小、あり、後、法、に、や、ら、ぬ、  
は、所、に、ひ、り、り、お、ま、れ、々、所、を、興、の、地、為、院、と、り、下、り、る、溪、と、い、う、た、  
立、田、の、林、の、と、い、ひ、あ、ら、う、く、知、小、空、海、の、や、た、あ、ら、う、い、り、り、り、  
に、停、車、坐、看、楓、林、晚、と、い、杜、牧、の、句、り、



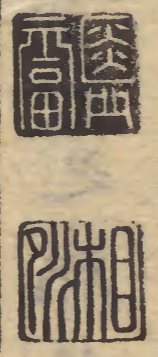
欽定  
鮮氣會

古今遷建曰帝都天子之居天子以  
四海為家豈有常處哉惟其所在即  
以為都都者人之所都會云爾以衆  
大而言謂之京都周公相成王都洛  
邑諸侯藩屏四方朝明堂後漢李唐  
亦都洛陽倣

本朝聖主之例以京師稱洛陽與抑  
平安者天下之中而有德無窮之都也從  
長國之遷都已來歷千載而賢聖在  
位景星見於天由是庶民浴泰平之化  
時遍覽四方山川之勝裁配畫工信繁  
令摸之還尋昔人之經蹟詳記其由緣  
全之名曰都名所圖會嗚呼聆左思

之博才蜀都賦歷年所况予撰不涉年  
寡聞淺識仰蒙其耻後君子正遺漏  
俟澡洗而已季秋十三夜於斑竹亭書  
皆安永九年也

選者 平安 秋里湘夕



平安永九年也  
秋里湘夕  
斑竹亭書

三都

東武芝神明町

岡田屋嘉七

浪花心齋橋筋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同 梅且木筋北久太郎町

河内屋新次郎

同 心齋橋筋本町角

河内屋藤兵衛

皇都表屋町通姉小路上ル

俵屋清兵衛

書林

會

